

厳しさを増す就職戦線

就職特集

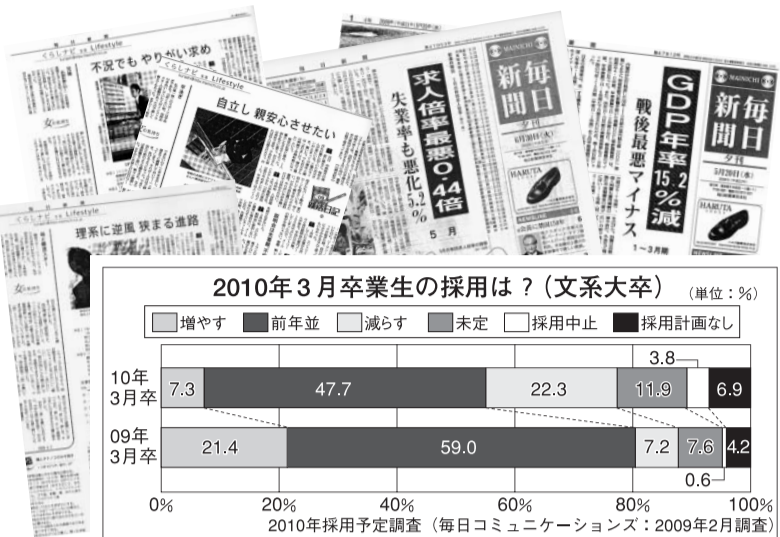
「希望の就職」をかなえるために

7~10面

「勝つ」ためのポイントは?



昨年までの超売り手市場の就職戦線から、一気に冷え込んだ4年次生の就職活動。それでも希望の内定を得ている学生はたくさんいる。企業の人事戦略はどのように変化したのか、どういふ学生を企業は求めるのか。「人的資源管理論」「労働法」が専門の廣石忠司経営学部教授に写真に学生へのアドバイスをいただいた。



情報収集し「働くこと」をイメージしよう

2008年秋のリーマン・ショックに端を発した今回の不況を受けて、多くの企業は業績が悪化している。そのため採用内定取り消し、企業の倒産といった情報がマスコミをにぎわせたことは記憶に新しいところだろう。

この影響は今年度も引続き、現4年次生は採用内定を受けられず、悪戦苦闘している者も多々ある。それでは企業の人事戦略はどのように変わってきたのか、学生としてどう対応すべきなのか、あらためて考えてみたい。



生田キャンパスでの学内企業説明会は、本学学生への評価が高い企業が来校



▲ 業界のリーディングカンパニーが来校する「業界・企業研究講座」

企業の人事担当者としては何人採用したらよいのか困っている、というのが本音である。何しろ4月や5月に採用内定を学生に通知しても来年の4月までの間に景気がどう変動するか、「見えぬ」といふ不安がある。また内定をとるに当たって、今年度の採用内定を学生に通知しても来年の4月までの間に景気がどう変動するか、「見えぬ」といふ不安がある。また内定をとるに当たって、今年度の採用内定を学生に通知しても...

大学生活を「自分の言葉」で語れる学生に

さて、こうした状況を前にして3年次生が直面する2010年の就職状況はどうか。景気は向上するという楽観論から、より悪くなるという悲観論まで、さまざまの見方があるが、一般的には悲観的に対応すべきである。現在のところ民間企業の調査では、新規採用をさらに削減するという企業が多いというデータもある。

第一に、業界研究をしっかり行っていた学生が浮かび上がる。第二に、その志望理由をきちんと言葉で伝えることができる学生だということである。どこかのハウツー本

から借り物ではなく「自分の言葉」という点がポイントとなる。借り物の言葉では面接官からつまってしまう。第三に、マナーがきちんとしていて、言葉遣い(特に敬語、動作、立ち居振る舞いなど)面接官入室のころからチェックしている。

ひろいし・ただし「一橋大学法学部卒業。慶應義塾大学大学院経営管理研究科博士課程満期退学。産業・組織心理学専攻。主な担当は「人的資源管理論」「労働法」。

キャリアデザインセンター 業界の知識を深めよう

大手企業取締役経験者からの指導!

▼ 右から小笠原さん、押鐘さん、種田さん



さんをコーディネーターに、4人の講師が各3回を担当。業界の概略説明、課題に対するグループ討議、プレゼンテーションが1サイクルとなっている。服部さんは、「参加者はみな意識が高い。課題に対してよく調べており、プレゼン能力も著しく向上しています」と話す。

キャリアデザインセンターでは、1年次では主に自分探しの2年次ではスキルを磨き、3年次でインターンシップなどを通じて働くことを体感し、4年次で進路決定をする。キャリア形成サイクルに沿った各種プログラムを展開している。

社会人基礎力

トレーニング

チームワークや

プレゼン能力がアップ

キャリア支援実践型ワークショップ「取締役経験者による社会人基礎力トレーニング」は、ビジネスの最前線で活躍してきた取締役経験者が直接指導する貴重な機会だ。業界の知識を深めると同時に、チームワークやコミュニケーション能力の習得、プレゼンテーション能力を高めることができる。元フジテレビ取締役などを意識して見ようという「服部さん」と話している。



キャリアデザインセンターでは、1年次では主に自分探しの2年次ではスキルを磨き、3年次でインターンシップなどを通じて働くことを体感し、4年次で進路決定をする。キャリア形成サイクルに沿った各種プログラムを展開している。